

2013年4月10日

医薬経済・イノベーション評価研究会（略称：キヤノンHTA研究会）  
2013年2月20日（水）開催 第10回研究会記録

【国際学会 ISPOR の Special Interest Group レポートについて報告・解説（バイエル薬品 岩田）】

文献；Challenges in the Development and Reimbursement of Personalized Medicine—Payer and Manufacturer Perspectives and Implications for Health Economics and Outcomes Research: A Report of the ISPOR Personalized Medicine Special Interest Group, <http://www.ispor.org/signs/personalizedmedicine.asp>

－ 本文献は、個別化医療の期待と課題を整理している。Personalized Medicine の ISPOR での定義を示すとともに、保険者およびメーカーから見たときのリスクとベネフィットが整理・報告されている。

【討議の要約】

- － 論文に記載されているモデルの妥当性について
- － Gold standard は何か、比較対象の設定について
- － コンパニオン診断薬は保険償還する意義があるのではないか；届けるべき人に効率的に届けたい
- － 海外では個別のテストに値段がついているのか、それは経済評価に基づいたものであるか
- － 診断薬が出ても、シェア確保の観点からは、“性能”が良くなっても価格は据え置くほうがよいか
- － Bio-maker については、原価計算で評価することを業界団体は提言している
- － 具体的な製品では、Bio-maker 検査を実施する例が少ない場合もあり、その場合の薬剤投与は少なくなる
- － 保険者からでなく、患者から見たときの課題についてなど。

（記録：研究会メンバー 杉本氏）